

生きる権利、守られるべき権利が守られていない社会に 気づいた者は、一人の主権者としての責任があります。



森松明希子さん

東日本大震災避難者の会 Thanks & Dream 代表
原発賠償関西訴訟 原告団代表

311の原発事故で福島県郡山市から大阪に母子避難している森松明希子さん。被災者・避難者たちは、各地で原発賠償訴訟を提訴したが、森松さんは2013年に大阪地裁に提訴した関西訴訟の原告団代表をつとめている。

それだけではない。原発事故被災者の人権状況について、2018.3.19に国連人権理事会でスピーチ。また2018.7.11には国会(参院特別委)で参考人として陳述した。原発事故による被ばくからの自由、避難の権利を訴えている。これは今年1.13の神戸での森松さんの講演をまとめたものだ。

森松 ● 「私は兵庫県の伊丹市出身で、1.17阪神淡路大震災のときは大学生で体験し、その後、3.11の東日本大震災の時は夫の職場の関係で福島県郡山市に2人の子供と4人家族で住んでいました。311で福島から大阪に避難していますが、大阪でも昨年最大震度6弱の地震がありました。

この地震大国・日本では、地震や災害はどこに住んでいてもいつどんな状況でも起きるかもしれない。しかも命からがらそういった災害から逃れ助かっても、そのあと、命が生かされ大切にされる社会かということがずっと問われ続けているんだろうと思います。

神戸では行政から裁判を起こして被災した高齢者たちが住んでるところを追い出されるというひどい事態が起きています。

国や行政はなんのためにあるのでしょうか？生きる権利の中の衣食住が満たされないと人は生きてる心地がしませんよね。そ

れらがちゃんと充足されるように保護するというのが国家のお役目だと私はずっと思っていました。国家があって国民があるのではなく、国民があって国家があるのです。それが日本国憲法に書かれている国民主権であって国民が一番の中心で主権者なのです。にも関わらず災害を通してその国家観が問われているのが今ではないかなと。阪神淡路大震災からどんな教訓が得られたかということ、行政の側が被災した人を追い出す裁判を起こしているというのがこの国の現状です。追い出される当事者はもう80才、90才になっています。やっと新しくコミュニティも築いてなんとか地震を乗り越えてきた大切なものを20年経ってから出て行けというわけです。ただでさえ高齢の方は孤独死の可能性も高いのがわかっていて、それを放り出したらどうなるか。医療や介護、コミュニティー構築の手当もなく追い出せば死んでしまう。

行政のそのような行為を許しているのは、実は無関心層という人々も含めての一般国民、一般市民なのです。

そして同じことが今、東日本大震災でも起きています。すでに山形では避難した人達が、避難のため提供された住宅から追い出される裁判が起きています。山形だけでなく全国で住宅を打ち切って、避難を続けたいという人の声は聞き入れられず、むしろ何の救済策もないまま避難住宅から追い出し、避難者の存在そのものを消そうとしている、と言われてもしたくないような施策が3.11以降続けられています。

今もよく女性が輝ける社会って言われますよね。平時は、表面上は女性も同じ権利を得られた社会があるようにみえるかもしれませんが。大学生のころは、友だちが大学を出てがんばって総合職に就職するのを横に見ていて、女性の権利も大分認められるような社会になってきたのだなぁと思っていました。でも自分が3.11で経験したときに、声もあげられないで一番守られるべき子どもの権利、特に子どもの健康に生きる権利が一番侵害されていると私はこの8年間思い続けています。そして子どもが一番近い女性である母親が子どもを守ってと声をあげようとすると、そこであれほど男女平等だったはずの社会ではまるでなかった、と。女は黙っておけ、復興のことだってぜんぶ男社会が決め

てしまう。でも男は赤ん坊におっぱいあげたことあるんですかって話しなんです。(笑)避難所だってそうです。女性のトイレは男性の3倍トイレの時間がかかる。ならば女性のトイレは男性の3倍つくらないといけないというのが国際基準であり、スフィア基準というものがあります。この国はぜんぜん達していないし、自然災害や人災によって国内避難民が続出しているという事態に国際社会で通用している国連で20年前からあってすでに立法化している国もあるという「国内避難民に関する指導原則」も、あまり知られていない。災害大国であり原子力推進なのに市民が守られる法律もない。この国イケてますか？と言われたら全然イケてないですよ！。メディアで流れてくるような、オリンピックまで誘致して日本スゴイ！みたいに市民社会は思わされているように見えるが、自分が東日本大震災を経験してまったく違うって思いました。

ほんとうに生きる権利、守られるべき権利が守られていない社会に気づいた者は、一人の主権者としての責任があるから、私は声をあげようと思っています。お母さんだからとか女性だからとか、1.17と3.11の両方を経験してるからとかではなくて、この国の一人の主権者として選挙権を持っていて、私がこの国をつくる、つまり国家があって私があるんじゃないから、私があって、私みたいな人がたくさんいてこの国をつくるんだという思いがあるから、東日本大震災を通して侵害されている権利をきちんと世の中に提示し、私たちの生きる権利きちんと守る、そしてそういう国家をみんなで作りたいたいという思いが私の立場です。」

★ 今年ももうすぐ統一地方選挙、そして参議院選挙がある。森松さんが言うように、我々には一人の主権者としての責任がある。この日本を今のような腐りきった壊れてしまった社会のままにするのか、それとも建て直していくのかは我々一人一人が決めることだ。

森松さんはこの3/19にはイギリス議会の院内集会に参加して発言する予定だそうです。(※フランスにも行くそうです)

原発賠償関西訴訟 KANSAI サポーターズ

<http://kansapo.jugem.jp/>

← 2019.1.13に神戸で行われた「生きる権利を求めて～阪神淡路大震災24周年集会」での講演動画が見られます。

